

# 平成30年度 入来地域まちづくり懇話会

## 答弁要旨

と き 平成31年2月14日（木）14：00～16：30  
ところ 入来文化ホール別館  
出席者 市：市長、永田副市長、知識副市長、上屋教育長  
企画政策部長、市民福祉部長、危機管理監、観光・スポーツ対策監、  
教育部長、農林水産部長、入来支所長、地域政策課長、商工政策課  
長、入来区画整理推進室長、広報室長、外  
地域：入来地域の5地区コミュニティ協議会長をはじめとする  
地区住民 100名  
(合計 116名の参加)

### 議題

#### 議題1（朝陽地区）

##### 中山間過疎地域について（働き場の確保と定住対策）

常日頃から、自治会及びコミュニティ活動支援に感謝申し上げます。

特に、昨年の朝陽小学校閉校式や記念行事に対し物資共に多大なご支援・ご協力に感謝とお礼を申し上げます。

さて、朝陽校区に住んでいる働き盛りのほとんどの人が、霧島・出水・南薩・大隅、時には県外へ朝早く出勤し、夜遅く帰宅している状況です。一方、地区コミでは、小学校跡地や富士通跡地利用、さらには農林業を中心にした地域振興及び起業興しに躍起になっておりますが、地区コミだけでは難しいのが現実です。

市長は、新年のごあいさつの中でも、人口減少、少子高齢化の進展、人手不足対策等に取り組まれるとの事で、感謝しご期待申し上げます。

##### 《県内外の働き場の確保・定住促進や学校跡地利用の優良事例》

###### ① 村づくり天皇杯受賞の宇検村阿室校区

親子山村留学制度を活用した結果、平成22年から8年間で35世帯・79名が定住

###### ② 長島町では、一昨年の6月頃から昨年の12月末で空き家利用54件110名の移住者（入来町の現状は、空き家が約300戸）

###### ③ 大分県臼杵市は、若者・シニア世代いずれも定住したい日本一

###### ④ 垂水市大野原小学校の効果的利活用

### 『提案事項』

過疎地域等自立活性化推進交付金事業・空き家再生等推進事業等を近隣の市町村及び県内外の取組状況等を情報収集と検証を行い、薩摩川内市政として、市民に対する説明会や具体的な取り組みを自治会や地区コミと積極的に検討し、働き場の確保と定住促進に取り組むべきと考えますが、市当局の今後の対応を教えてください。

### 【企画政策部長】

朝陽地区コミュニティ協議会におかれては、少子高齢化が進む中、自治会をはじめ各種団体と連携を図りながら危険箇所マップの作成等、安全安心な地域づくり、地域見守り活動等自主的な活動を展開していただいていることに対し、敬意と感謝を申し上げます。

提案が大きく二つある。まず一つ目の「働き場の確保」については、従来からの企業誘致の取り組みを進めている。富士通跡地については市が購入し、平成28年7月から入来工業団地として分譲を開始し、これまでのところバイテックファーム薩摩川内が立地している。平成29年11月から操業開始されている。企業誘致については引き続き県内外の企業訪問を行い、入来工業団地への立地を最優先にPR活動に取り組んで参りたいと考えている。

他方、人手不足が大きな課題となってきている。地元企業への就労と移定住を促進するため、UIJターン者の対策の取り組みも強化しているところである。県外の郷土会等への情報発信をはじめ、補助制度として市内企業に就職したUIJターン者のうち、一定の要件を満たす方については1年間の家賃補助あるいは10万円の就労奨励金制度も設けているところである。

人口減少、事業所数減少の傾向にある中、雇用機会の拡充のための企業誘致と新卒者の地元企業への就職促進及びUIJターン者の就職先の確保等、人材確保の取り組みを積極的に進めて参りたいと考えている。

なお、大学進学や就職で市外・県外に出られた方が多数いらっしゃると思っている。親戚の方や子どもを含めて、ぜひ、地元から地域に帰ってきてほしい、ふるさとで働いてみないかといった声掛けをしていただければ大変ありがたいと考える。

次に、もう一つの提案のあった「定住促進」について回答する。

先進事例等も挙げてあるが、国事業である過疎地域等自立活性化推進交付金事業については、県内外の活用事例などの情報収集は行っており、また、本市甌島地域で活用した事例もある。この交付金は主に市が直接行う事業が補助対象となっていることから、具体的に活用していく事業があれば、関係の地区コミュニティ協議会等と一緒に協賛・検討しながら進めて参りたいと考えている。

また、空き家対策については国の空き家再生等推進事業は今のところ活用していないが、本市においては独自の制度を持っている。特定の空き家の除却・解体に対する補助、定住促進のために、地区コミュニティ協議会等が空き家等を活用した施設整備

への地域移定住促進補助制度を設けている。これまで甕島地域で3件の取組実績がある。こういった本市の補助制度を積極的に活用していただきたい。

地域活性化を図るための事業として、国・県・市の制度、さまざまな制度がある。市としても情報収集しながら課題を抱える地区コミュニティ協議会や自治会の要望に応えるため、個別の案件に対して、逐次、相談対応しているが、今後も地区コミュニティ協議会で現在、見直しを進められている地区振興計画の中に位置付けられている事業等についても引き続き、一緒になり検討して参りたいと考えている。

また、定住施策に関しては、現在、定住住宅取得補助（住宅を購入した場合の補助金）やリフォームした場合の補助がある。さらに、空き家バンク制度や奨学金返還支援制度等の支援制度を設けている他、移定住支援センターを設置して、移定住や雇用に係る相談、サポートをしているところである。定住住宅取得補助とリフォーム補助については、3年ごとに見直しを行っているところであるが、平成32年度は見直しの検討を進めることとしている。今後も地域のニーズに合った制度に変えていきながら、今後も積極的に定住施策を進めて参りたいと考えている。

#### 意見

空き家のことで質問する。現状では空き家が多い。空き家を壊すと産廃で相当な費用が掛かる。さらに、解体後の税金が6倍になると聞いたことがある。そうであると倒れそうになった空き家もなかなか壊さない、そのまま放っておく。再利用についても話は出るが、再利用できるような空き家はあまりなくて古いものがたくさんある。壊した後に、例えば山に変更したいが、木の大きさがある程度にならないと山林にはできないといった話を聞くと何十年も先の話となると、住宅の税金は続くことになるといった心配がある。空き家対策は大事だと思っているので、どういう形で空き家対策を進めていった方がいいのか心配している。

#### 【企画政策部長】

空き家を解体した場合は、掛かった経費の2分の1で上限が30万円の補助金制度がある。ただし、かなり経費が掛かるといったこともある。数年前からこの制度があり活用いただいているが、いま御意見のあった税金のことは税制上のことで、家屋を解体後に税金が6倍になるということになると家屋を壊さないという方向に行ってしまう可能性があるため検討の必要がある案件である。本日は関係部長が不在のためこの御意見は持ち帰り、取り壊した後の固定資産税の在り方については担当課に検討いただくように伝える。

#### 意見

以前、地域の600人の意向調査をさせていただいたときに、中学生と高校生が入

来に残りたいかという意向を取ったが、70%以上の方がどうしても残りたい、その中には仕事があればという話であるが、川内地域ではなく、地方に働き場の確保が必要ではないかと思っている。地方で働き場の確保をしていって常日頃のコミュニケーションが取れる中で地域の活性化を図っていきたいということが根底にある。したがって、ぜひ、国県の事業も積極的に地区コミュニティ協議会や自治会に説明会をしたり、検討したりして和気あいあいの中で、やはり地方行政というのは、自治会、地元があつての市の行政ですので連携を強化していけたらと思っている。いずれにしても時間がない。過疎から引き上げて、子どもたちの夢を叶えてやるのが行政、地元であると考えている。

#### 意見

UIターンや定住について、市では補助金や施策を十分にされているとは思いますが、その効果について、入来地域ではその実感が湧かないと感じている。入来のロケーションをもっと考える必要がある。入来地域は鹿児島市のベッドタウンになり得ると考えるが、入来峠がネックになっている。これは国や県へ積極的に働き掛ける必要がある。将来にインフラが整備されると地価が安く、アクセスの良い入来地域に家を造っていただき、税金を納めていただくというような方法も考えられるのではないかと。

#### 【企画政策部長】

合併後、周辺地域の人口減少が進んでいると思われる。市の制度としては定住施策についても市の中心部には補助金を出していない。周辺地域のみ住宅を取得された方、リフォームされた方について補助し、できるだけ周辺部に家を造っていただくように誘導をしている。

それから、民間が造った賃貸住宅を市が借り上げて貸すという借上型住宅についても、地方に造って若い世帯に住んでもらえるようなことも施策としてはあるが、現状としては人口減少のスピードが緩まないという状況にあるかと考えられる。

本市としては、市総合戦略を平成27年10月に策定し、雇用、移定住、子育て、地域づくりという4つの柱で事業を進めているが、これが平成31年度までで終了する。平成32年度から新たに総合戦略を作るが、総合計画とセットにして計画づくりを進めていく。その際に、現在、各地区コミュニティ協議会で検討されている地区振興計画も参酌しながら計画を作っていく。市域の均衡ある発展のための施策を今後どう考えていくかということを実際に考えなければならない。また、そういった施策を考えていくべきであると思っている。

また、入来地域をベッドタウンとしてここから鹿児島市に通勤するようなことが重要なのではないかとということであるが、国道328号が通っていることから、可能であると思っている。そのためにはここに住むための動機付けをしなければならないと考える。その場合にいろいろな移定住施策もさることながら町全体としての魅力を上

げていかなければならないと考えている。例えば、温泉がある、市の施策として子どもを育てやすい環境がある、買い物がしやすい、病院が近い等を含めて全体的に底上げしていかなければそこに魅力はないということになるので、住んでいただくような総合的なことを、市だけではなく地元の皆様と一緒に考えて参りたい。

#### 意見

具体的に、どういう行動をするのかということが大事であるとする。執行部が計画されることはいいことである。ただ、実際にいろいろなことをされても入来には定住しない。何が問題かということを考えれば、例えば、鹿児島市に通勤できるように便利にするためには何がネックか、あるいは薩摩川内市中心部の企業にするには何がネックかという、基本的なことを考えた中でハード的に、あるいはソフト的にも解決していくのではないかと。計画をお聞きしているのではない。将来はそれでいいかもしれない。現実的に何が施策は大事かということを考えてほしい。

#### 議題2（清色地区）

##### 清色地区コミュニティセンター施設の整備（会議室・倉庫の増設）について

本施設は厨房、小会議室（和室）、多目的ホールがあり、地区コミュニティ関連の会議や活動、地区住民の健康講座や各種団体自主学級、学校関係等の利用がなされ、大変充実した活用がなされています。また、自治会館のない自治会（松山・芝町）も会議等で使用しているため、大変意義のある活用がなされていると考えています。

しかし、たくさんの団体の利用があるため、会場が不足しご不便をおかけしているのも現状です。また、各自治会でのサロン等の計画実施を呼びかけており、今後更に利用が増える可能性もあります。

また、長年のコミ活動に必要な諸道具や機材などの収納に苦慮しています。現在はプレハブを使用していますが、電気照明もなく手狭なためテラス部分を小会議室への改修と併せて倉庫の設置をお願いしたいと考えています。

ホールは冷暖房設備を完備していただいています。放送設備も固定したものに整備していただくとありがたいです。毎回放送機材を準備するのは大変不便を感じています。

#### 【企画政策部長】

清色地区におかれては、少子高齢化が進む中、自治会をはじめ各種団体と連携を図りながら、伝建地区を生かした活性化、世代間交流、サロンや各種自主学級等、特色ある自主活動を展開されていることに対して敬意と感謝を申し上げます。

議題のうち、まずはテラスを活用した小会議室と倉庫の設置についてであるが、事前に現場も見させていただいた。大会議室と小会議室があり、年間の利用も多い状況である。

しかしながら、増築となるとかなりの経費が必要となることから、大変御不便と御苦勞をお掛けするが、まずは利用団体との調整をお願いしたいことと、大会議室を仕切るなど工夫して会議室等の使用をお願いしたいと考えている。

さらに、使用が重なった場合については、入来支所の会議室も利用できるもので、事前に入来支所に御相談いただきたい。公共的団体であれば使用可能である。

また、備品収納の倉庫についてであるが、現在も1つ設置してある。地区コミュニティ協議会が新規に倉庫を設置する場合には、自治公民館等設置事業補助金が利用できる。補助率は、2分の1で上限20万円である。御活用いただきたい。

放送設備の整備については、2つの補助制度がある。1つは、市の補助金で、地区コミュニティ活性化事業補助金で、補助率は補助対象経費の3分の2、上限20万である。もう1つは、宝くじの益金を財源とした自治総合センターが助成する制度があり、補助額が100万円から250万円となっている。ただし、要望が多いため時間が掛かる。

いずれにせよ、市、宝くじの補助事業を活用して本日ここで使用されているような物も含めて御検討いただきたい。

### 議題3（副田地区）

#### 温泉場土地区画整理事業について

日頃より当地区コミュニティ協議会活動にご支援頂き深く感謝申し上げます。

富士通跡地の工業団地も第1号の工場も創業し期待しているところであり、第2・3の企業が来町されるよう深く望むとともに、各種イベント等を開催できたらと願うところです。

さて、副田地区コミュニティ協議会では、温泉施設湯之山館を中心とした地区活性化活動（湯ノ山公園整備、夕遊市、入来温泉祭り、温泉川柳）が定着する中、地区外から多くの方々が湯之山館に来館されます。（平成27年126,455名、平成28年129,902名・102.7%、平成29年136,705名・104.75%、平成30年11月84,014名・同期比99.25%）入来地域人口減少の中での来館者であります。現在1期、温泉場土地区画整備事業が整備中ではありますが、当初計画（平成30年度）から3年延びましたが、それでも終わらないような状況に見られます。

湯之山館へのアクセスの悪さが多く聞かれる中、メイン道路の早期整備が必要です。当計画は旧入来町時代、若松町、本通り自治会も含むものでありましたが、事業採択に当たり、2工区に分割し、現在の事業区域となり、2期予定分は、現在の事業が進む段階での事業計画でした。当計画には、新屋敷橋（竣工S29.10）、亀の湯橋（竣工S46.2）、寺床橋（竣工T14.1）等、老朽と欄干も低く、これからの整備を含む1級河川釣尾川の改修事業も県へ要望をお願いします。同時に1期工事の明確な時期等をご説明いただけないでしょうか。

**【入来区画整理推進室長】**

副田地区コミュニティ協議会の皆様には、日頃から入来温泉湯之山館を中心とした地域の活性化活動に取り組んでいただいている事に心から感謝申し上げます。

入来区画整理推進室では現在、道路の築造工事や水路付け替え整備工事、宅地の造成工事等に取り組んでいる。

宅地の造成工事については110区画程整備しており、その内68区画について住宅が建築され、居住されているが、なかなか定住が進まないのが現状で、定住促進に苦慮しているところである。

まず、1期地区の完了時期については、現在、平成33年度完了を目指して事業を進めている。平成27年度から国からの交付金の割当がかなり厳しくなっており、この状況は現在まで同様に推移しており、この影響で事業の進捗も遅れ、平成33年度完了は非常に難しい状況である。このようなことから事業計画の変更をし、事業期間を延伸しなければならないと考えている。延伸期間については残事業費を精査してみなければはっきりと分からないが、最大最長でも3年ぐらいは延伸をしなければならないと考えている。地域の皆様には、大変な御心配をお掛けすることになるが、御理解と御協力をお願いしたい。

次に、地区外から湯之山館へのアクセス道路である、市道本通辻原線の整備については、湯之山館へ通じる重要な路線であることから、厳しい予算状況であるが、優先的に創意工夫しながら早期完成に向けて取り組んで参りたい。

また、橋梁の整備については、平成26年度から平成30年度にかけて、専門的機関による橋梁点検を行っており、その点検結果を基に橋梁長寿命化修繕計画の見直しを行い、その修繕計画書に基づいて傷みの激しい橋梁から順次、整備していくこととしている。

次に、県管理河川である一級河川、釣尾川の改修については、県へ機会があるごとにさらに改修の要望を行って参りたい。

**意見**

2次計画について、今後の見通しについてご説明いただきたい。

**【入来区画整理推進室長】**

2期地区について、当面は1期地区の完了に向けて全力で取り組んで行く事としている。御理解をお願いしたい。

2期地区については、これからの検討課題としており、あらゆる角度から調査・検証をしなければならないと考えている。

意見

最悪の場合、事業が中止ということも視野に入っているのか。

#### 【入来区画整理推進室長】

具体的には、2期地区の事業費や事業期間、あるいは、投資効果があるのかどうか、そしてまた、補助事業での実施が可能か否か等の調査をして、その結果に基づいて総合判断をすることになるかと考える。

#### 議題4（八重地区）

##### 八重地区コミュニティセンターの施設整備について

八重地区コミュニティセンターは、昭和63年に屋内スポーツ集会場とし建設して頂きました。当時は、バレーボール等盛んで活発に利用し、女子チームが優勝をした時もあり重宝いたしておりました。

近年同地区は、65歳以上の高齢者が中心となって、地区の活性化に取り組んでいますが、会議・講演会イベント等はもちろんのこと、高齢者のサロンも同センター内で実施しているところです。

会議や学習に対しては夜間利用がほとんどであり、元々ホールとして作られた建物から、天井が高く照明が暗くて、利用に支障をきたしていることにより、照明設備の改善をお願いしたい。

また、夏場のサロン等は参加者も多い中で、家庭用扇風機で対応しているが、暑さが厳しく熱中症対策等苦慮しているため、現状より空調設備の改善をお願いしたい。

さらに、同センターは災害時の避難場所でもあり、両施設設備の改善をぜひご検討をお願いいたします。

#### 【企画政策部長】

八重地区コミュニティ協議会におかれては、少子高齢化が進む中、少ない世帯数で自治会や各種団体と連携を図りながら、除草や花いっぱい運動、夏祭り、サロン活動等、地域独自の活動を展開されていることに対し、敬意と感謝を申し上げます。

照明設備及び空調設備の改善のことであるが、市では、毎年、各地区コミュニティ協議会に地区コミュニティセンターの修繕や備品の要望調査を行い、次年度の修繕計画の参考としている。

八重地区については、屋内スポーツ集会場を地区コミュニティセンターとしているため、他地区とは異なり、使い勝手の部分ではご不便をお掛けてしていると考えている。事前に現場も拝見したが、体育館の構造であり、高い天井に蛍光灯が組み込まれている。非常に暗い状態が見受けられた。それから夏は非常に暑くなるのではないかと感じたところである。

これらについては、これまで幾度となく地区コミュニティ協議会から要望もいただ



いており、市でも最善の方法を検討しているところである。災害時の避難所にもなっていることから、来年度以降、要望に沿えるよう対応して参りたい。

#### 議題5（大馬越地区）

##### 大馬越地区コミュニティセンター内の施設整備及び併設施設の備品整備について

合併して14年が経過し、コミセン活動も高齢化が進み、参加者もままならない状況であります。地区内におきましては、9自治会の内4自治会がゴールド集落に認定されており、地区内の高齢化率は52%と管内でも高い方にあり、今後高齢者対策が急務となっております。

現在、地区コミにおきましては、高齢者ネットワーク見守り事業やサロン開催、更には健康体操等を取り入れ、高齢者との出会いを大事にしている所であります。

平成31年4月からは市の支援を受け、コーディネーター職員1名を採用し、「まるごと支えあいふれ愛事業」の導入を計画しておりますが、事務局に職員を配置すれば部屋が狭く、外部からの訪問客に多大な迷惑を掛けることが予想されます。このため北側に1.3m拡幅できれば、支障なく業務ができるものと思います。

また、大馬越地区はもとより、市内各地からの利用者がある農村研修館の備品について、逐次、修繕等にて延命処置をして頂き使用しておりますが、全ての備品が耐用年数を過ぎていることから、業者からは部品の調達が難しいと言われる備品が増えております。中でも、味噌づくりに欠かせない製麴機は、周辺機器を交換してはいるものの、いつ故障してもおかしくない状況であり、昨年11月には、電気系のリミッター故障により約1週間の閉鎖に追い込まれた次第です。

特産品づくりと、数少ない地域住民が食を継承していく場と、世代交流の場でもありますので、故障を未然に防ぎ、計画通り利用できるように機器及び備品の整備を要望するものであります。

#### 【企画政策部長】

大馬越地区コミュニティ協議会におかれては、少子高齢化が進む中、自治会をはじめ各種団体と連携を図りながら、グリーン・ツーリズムによる交流、健康で生きがいのある長寿の里づくり、特産品の開発・販売等、地域の特性を生かし自主的な活動を展開されていることに對し、敬意と感謝を申し上げる。

地区コミュニティ協議会の事務所が狭く、北側に広げてほしいとの御要望である。事務所の面積については、合併時に標準面積を設定し、在席割合の多い会長並びに事務局職員、地区コミュニティ主事の3名が同時に執務できるスペースと、コピー機、印刷機、書棚等が置けるスペースを合わせて、約15㎡(4.5坪)としている。

大馬越地区コミュニティセンターについては、現状の面積が18㎡(約5.5坪)あり、標準的な面積は確保されていると考えている。事前に現場も拝見した。コピー機を室外に出され、コーディネーターの机は中に配置されていた。事務所は非常に狭く

使い勝手も悪いことは承知しているが、他のコミュニティセンターも既存スペースで対応していただいていることから、大変御苦勞、御不便をお掛けするところであるが、コミュニティセンター内の和室が2箇所あるが、そのような所を仕切って使用するなど、既存スペースを工夫して使用する等での対応をお願いしたい。

#### 【農林水産部長】

地域の皆様方には本市の農林水産業に関して御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。大馬越研修館の備品整備に関して回答する。

本市が管理する農産物加工センター及び農村研修館は市内全域で7箇所あり、保守点検業務を行いながら施設の維持・管理に努めている。

しかしながら、7箇所全てが開設から25年以上が経過し、施設の老朽化も進み、調理器具等の故障が発生している状況である。加えて、調理器具は特殊なものが多く、修理や新規導入費が高額に及ぶことから、これまでの利用頻度や緊急性等を考慮しながら、7箇所全体の整備について限られた予算の範囲で対応している。

大馬越農村研修館も、多くの方々に御利用いただいております、特に、利用の8割を占めるものが味噌作りであり、この味噌の風味が好評で、利用者が多いと理解している。

その味噌作りに欠かせない製麴機は、当研修館にあるものは昭和57年製の機械で、37年が経過し、度重なる修繕を行いながら、今日まで使用していただいているところであるが、味噌作りのピークを迎える昨年11月に、電気系統の故障が発生したところであり、1週間御不便をお掛けしたが、市としては修繕を行ったところである。

このようなことから同施設の製麴機は、老朽化が特に著しく進んでいる状況にあることから、更新に向けた予算確保に取り組んでいるところである。

併せて、その他の備品等の整備については、市内7箇所の農産物加工センター等の備品の状況を踏まえながら、利用頻度や老朽化の状況など、併せて必要性や緊急性を考慮しながら備品の整備・更新に努めて参りたい。

#### 要望

加工室の機器の更新について、更新に向けて取り組んでいくという回答があった。更新ということが、いつであるのか。予算のこともあるが、できれば更新時期を明確にお答えいただけないか。

#### 【農林水産部長】

なるべく早い段階で皆様方の御要望に応えられるように準備をしているところである。御理解いただきたい。

## その他意見・要望

### 要望

夏場になると道路脇の草が生えたままになっている箇所が多い。それから散歩をする際に道路の傷んでいる箇所がある。でこぼこであり、つまづく方々も見受ける。危険な箇所が多いと感じる。道路補修班でできていた箇所ができていないため、道路へ予算が回っていないと感じる。

もう一つは、国道328号に面した家で、家から国道に出る際に道路緑地帯があるため、まっすぐに通行したいが通行できない状態である。鹿児島県警からはまっすぐに渡るようにと指導されている。県にも話をしているが市からも話をしていただけないだろうか。

### 【知識副市長】

御要望にありました伐開の問題、生活道路の舗装・補修の問題。これは皆様方の生活に直結する非常に大事な問題であると考えます。ただ、残念なことに伐開は年に3回か4回の実施で、夏場は刈った後にすぐ生えてきているという状況は十分承知されていると考えます。そのあたりを考えると、道路補修班には頑張ってもらってはいるが、それでも何分にも市道延長が長いため、その分で皆様方にクリーン作戦等をお願いして、無理な箇所は言っていただく事としているが、その後、限界があるというようなことも御理解いただきたい。

舗装補修についても、極力一番傷んでいる所を取り組んでいきたいと考えています。特に白線の外側線が見えなくなり、薄暮時、夕暮れ時、曇りや雨の日に見えにくいということも伺っています。しかしながら車の量や歩行者数等を勘案しながら選定させていただいているところである。どうしてもという箇所があれば、支所を通じて御連絡いただきたい。

国道328号の植樹帯の件について、浦之名の植樹帯は鹿児島県で初めて道路に植樹帯を入れた区間である。道路空間の有効利用と併せて環境問題も考えていくということである。住民の皆様には植樹帯の草払いや草取り等を含めていろいろなことに取り組んでいただいた。感謝申し上げます。御意見の内容についてはこれまで意識していませんでした。北薩地域振興局と協議しながら対応させていただきたい。

### 提案

交通安全の面からの意見である。信号機の下の一歩止が見えない。それから車で走っていると横断歩道が見えないときがある。今後も引き続き気を付けていただきたい。それから先ほどの回答で、草の伸びが非常に早いということだったが、一つの考えとして、ガードレールの下に生コンを塗ればいいのかと思っている。1箇所

所塗って見たら草が生えないで非常に効果があった。もう一つは、道路をせっかく広く造っているのに、侵入しないようにブロックとロープで塞いでいる。ごみを捨てるからか分からないが、ドライバーの立場からすれば休憩や電話をするのに非常にいい場所なのにと思っているところである。

#### 【知識副市長】

道路の通常の維持管理という観点からいくと、いま話されたとおり、白線や舗装・補修の問題がある。提案にあった草が生えるのを防ぐ道路の盛り土肩、切土の分の斜面部分のだいたい1mを防草工といってコンクリートブロックを並べたり、コンクリートの吹き付けをしたりして、極力道路が広く使えるように新しく道路を造るところは実施している。ところが、既設の所は延長が長いので、提案については十分認識しているのでその都度、御相談しながら取り組んでいきたい。

道路の旧道敷といって、曲がりくねった道路の線形を改良すると空き地が出る。その空き地のところに今までは空き地のままにして停車帯という形にしていたが、約10年前に不法投棄があった。主に山のところである。ビニールや空き缶等のごみに山の持ち主が非常に苦労されているというふうなことがあり、とにかく見えるところの道路の肩から最低でも1m以上離してロープを張ったりして入らせないように、ごみを投げられないようにしている。

また、その中でも、もしもゾーンというものがあるが、お気付きであるだろうか。待避所のものすごく広いところは少しだけ残して、そこに車が駐車できて電話を掛けられるゾーンになっている。道路標識も設置してある。何分にも広いところがないため設置数が少ないことも実情で、やむを得ずロープを掛けてブロックを設置しているところである。工事で出た側溝等の廃材を設置していたところもあったが、それでも入り込んで不法投棄をしているところも見受けられたことからロープを張っているところである。御理解いただきたい。

#### 意見

入来総合運動場武道館下の駐車場は舗装されていない。各種イベントや来年行われるかごしま国体の会場にもなっているため整備されると考えるが、駐車場の整備は検討されているのか伺いたい。

#### 【観光・スポーツ対策監】

国体の整備の関係については御承知のとおり整備に入っているところである。本年はリハーサル大会が開催される。駐車スペースについてはかなりの台数を確保しな

ればならないと考えていることから、国体においては、グラウンドを駐車場として考えているところである。雨天時の場合はグラウンドであるため慎重な利用が必要であるが、いずれにしても多くの駐車を考えた場合にはどうしてもグラウンドを利用するほかないと考えている。御意見の箇所については、利用することになっているが、国体の整備の中では舗装まで行うという考えはないところである。

#### 要望

駐車場に関連してお話する。川内文化ホールがゆくゆくは無くなるとお聞きしている。そうなったときに入来文化ホールの利用価値が上がってくるであろうと想像している。500人規模の催しを行おうとすると駐車場が無い訳である。このホールより少し遠くなるが、武道館下の駐車場整備やグラウンドを使えるという決まりを作っていた方がいいのではないかと考える。

さらにもう一つ。まちづくりは人づくりであると考えている。市も良い施策を打っていただいている。子どもを産み育てるといふ部分も人づくりであるが、先駆けて保育料の軽減も実施していただいている。市外の方からは非常にいいですねという御意見もお聞きしている。保育の現場にいるが、保護者から感謝の言葉をいただいていることも事実である。感謝申し上げる。出生数も上がってきているのではないかと感じている。全体の人口から見ると、高齢者も多いためそれに追いつくような訳にはいかないと考える。横ばいあるいは微増ではないだろうか。他に先駆けて保育料の無償化を導入されたが、これに追従して他市町村も実施してくる。同じことをしていても本市に移ってこない。新しい手を考えて、できれば第4子を産んだら何かの手立てがあってもいいのではないかと考える。さらに人を育てるといふ観点から話をする。健診に行かれた保護者から相談を受けることがある。特に第1子を持つ保護者は不安を感じながら育児をされている。健診に行かれた際に、専門的な指導ができる保健師がいるがその方々からの指導がどうなのだろうかと感じている。健診後に保育園に来られた際に、子どものことで指導されたが、うちの子は心配なのだろうかと言われることが度々ある。言われた方々が最後に言われる言葉は、2人目はやめようかなあという言葉である。施策の反対にそのような対応があると子どもは生まれてこないのではないだろうかと心配をしている。人づくりで話をしたいことは、たった1人や2人の専門職と言われる方々がちょっと言葉を掛けることによって不安を持たれた時には、そのまちは良くないまちというふうに評価されていく。若者はSNSですぐに拡散する。であるから、そのようなことがないようにお願いしたい。きめ細やかな対応や相手の気持ちになるところから始めなければ人づくりはできないだろうと考える。

#### 【市民福祉部長】

御意見をいただいたが、出生率については伸びているのではないかという御意見が

あった。他の地域に比べてそこまで落ちている状況にはないと考えている。一連の御指摘のあった3歳児の健診であるとか産後の母親のサポート、子どもの発達状況についての声掛けといった部分について十二分に保健師や助産師を通じて気を付けているところであるが、今後ますます次の子は地域で生みたいといったことになる上では十二分に人材の育成、スキルアップといった部分も重要になってくるので今後とも気を付けて参りたい。特に保健師・助産師等については、市においても確保という面でもかなり苦勞しているところである。またそういったお母さん方が健診以外でも気軽にご相談いただける体制づくりといった部分も子育て支援包括支援センターもつくっているの、そういった部分でも対応させていただきたいと考えている。今一度、対応に当たる職員にはどういった状況にあるのかといったことについて確認をさせていただきたい。引き続き御支援をいただくようよろしくお願いいたします。

#### 【観光・スポーツ対策監】

グラウンドの駐車場利用について御意見をいただいた。本市内のグラウンドにおいても大きなイベント的な利用については、グラウンドの使用も行っている。御承知のとおり、総合運動公園の多目的運動広場もJ Aフェスタ開催時等には開放している。グラウンドであるため、特に雨天時利用後のグラウンド整備を御利用いただいた方々で実施していただくことが前提である。ここらを御理解いただいた上で利用いただきたい。一定規模の参加が見込まれる分については、駐車場が必要であるので市でも可能な方向で検討してみたい。よろしくお願いいたします。

#### 提案

定年で帰郷し郷土研究会でいろいろな歴史を学んでいる。その中で気が付いたことをお話しする。入来町誌によると、八重に金五郎屋敷というものがあり、そこに碑が建っているということで、町誌に基づいて調べに行った。鹿児島大学の牧場が入ってきてその部分を全て埋めて、その金五郎屋敷の表示がなくなっている。そのような工事をするときそこに文化財があると確認し、文化財があるのであれば元に戻してそこに明示をしていただきたい。それからもう一つ、鹿児島大学の牧場に江戸時代に建てられた山の石があった。その石が赤城神社と一直線になっている、トリニティ法則だと本に書かれている。それも牧場を作ったために、他の場所にポツンと置かれている。施設を造った後に、ここにあったとしっかりと文化財の明示をちゃんとしてほしい。文化財の表示をどこかがチェックする仕組みはないか。

#### 【教育部長】

貴重な文化財についてはしっかりと保存をしなければならないと考えている。話にあったように、工事でなくなったりしたということは非常に残念なことである。そのようなことがないように市では連携していると考えますが、お話のあった事例のような

ことがあれば、そういったことがないように外部にもしっかりと周知をして貴重な文化財を守っていくようにしたいと考える。それから、いま話のあった内容等について、十分情報を知らないことがあると考えるので、あらためて話をお伺いしながら、表示ができないか、そのように守っていくことはできないかについては、十分検討させていただきたい。

## 総括

### 【岩切市長】

長時間にわたり熱心に協議をしていただき、感謝申し上げます。

また、いろいろな意見や提案をいただいた。今後、十分検討させていただきたい。

各地区コミュニティ会長の方々が、それぞれの地域の振興計画を中心にして話をされた。地域を思いながら地域の発展をどのようにするのかということをごまごまとお聞きした。今後ともよろしく願います。

特に出された意見の中でもお答えできないこともあったが、いまちょうど新年度予算を議会に提案をしているところである。したがって、議会の議決を得て決まらなければ公に説明ができないが、気になった部分を申し上げます。

まずは空き家対策についてである。15年後、日本の住宅の3分の1は空き家になるといわれている。おそらく、本市内全体を見てもそれに近いところにきているのではないかと思っている。特に甕島は空き家が多い。

したがって、こういう時代が来るということを覚悟しなければならない。市が補助金を出してどんどんやることも一つの方法だが、やはり個人の財産である。いろいろな手続きがあり、個人財産は個人が処分しなければならぬわけであるが、かといって、例えば道路にすぐ倒れてきそうだと公共的に危険な箇所は市が撤去することができるが、慎重にやらなければならない。先ほど説明があったが、20万円を限度に補助金を交付し撤去していただいているところである。

次に、バブルがはじけた日本が今どういう状況にあるかと申し上げますと、国・県・市の財政どこも厳しくなっている。したがって、新しい新設道路を造ることはとても無理がある。南九州西回り自動車道も50年経ってようやく現在の状況になっている。鹿児島市まで道路を整備して、通勤・通学ができるようにするには今の段階では厳しい。それよりも今ある地区コミュニティ協議会を中心にして、魅力ある住みやすいまちづくりをすることによって人を呼び込むという方法が現状としては近い距離にあるのではないかと感じたところである。提案として受け止めるが、国・県・市の財政状況も考慮しながら計画づくりをしなければならないと思っている。

次に子育てについて、今回新たな政策を提案したところである。やはり、子ども達がいることが生き生きしていいことではあるが、現状としては難しいところである。

市長に就任してから医療費の問題であるが、子どもが増えてくると医療費がかかる

から一人にしておこうというよう御意見をたくさんお聞きしたので、現在は高校生ま  
で医療費を無料化している。これが少子化対策になっているのは事実で、2人目以降、  
出産する方々も増えてきている。その他、保育料の免除を含めて政策をとってきた。  
新しい政策として、3人目を妊娠したらお祝い金を支給する制度を作る予定である。  
また、3人目以降の保育料の無料化等いろいろな政策をとっているが、全国的にみる  
と本市は1人及び2人の子どもを持つ方が約75%である。残りの25%が3人以上  
の子どもを持つ方である。この多子世帯に補助をする政策を結婚する状況あるいは子  
どもを産む状況が厳しいという中で、少子化対策を取っていくということはやはり喜  
んでいただき、経済的に負担にならないようなことを市の政策として取り組んでいく  
ので御理解いただきたい。

合計特殊出生率というものがあり、女性が一生に何人の子どもを産むことができる  
のかということである。全国でトップは2人で何団体かある。本市も1.8人～1.  
9人という数字で、全国50位以内に入っている。少子化対策で本市は生き残れるの  
ではないかと思っている。より多くの子どもを産んでいただける施策を展開していく。

次に、待機児童についてよく問い合わせがある。働きたいが子どもを預けるところ  
がない等の御意見をいただいている。待機児童をゼロにしていく施策も今回挙げてい  
る。御理解いただければありがたい。